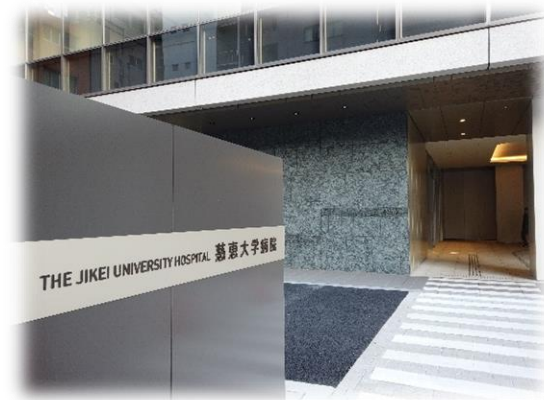


学校法人 慈恵大学 医療ソーシャルワーカー 職場案内



慈恵大学 医療ソーシャルワーカーを 志望される皆様へ

この度は、当院の職場に関心を持っていただき、ありがとうございます。
当院は、29年前に初めて医療ソーシャルワーカーが配置され、その後
徐々に規模を拡大し、4機関それぞれの役割を持ちながら発展してきました。
ソーシャルワーカーの構成は、経験が20年以上のベテランから中堅、
若手スタッフまで在籍し、経験年数や年齢層のバランスが良い職場です。
新卒から当院へ入職した方、他院を経験した上で転職されてきた方も
おります。皆さんの個性を活かしていただけるよう柔軟な教育体制を整え、
チームワーク良く業務に取り組めるように努めております。
一緒に仕事が出来ればと思っておりますので、ご応募お待ちしております。

慈恵大学 ソーシャルワーカー室一同

慈恵大学 医療ソーシャルワーカーの歩み

- ◆ 平成 6年 4月:新人ソーシャルワーカー3名が慈恵大学に入職
- ◆ 平成 6年10月:第三病院ソーシャルワーカー室開室
- ◆ 平成 7年 1月:本院ソーシャルワーカー室開室
- ◆ 平成10年 7月:葛飾医療センター(旧:青戸病院)ソーシャルワーカー室開室
- ◆ 平成12年 7月:柏病院ソーシャルワーカー室開室

その後、各機関において医療連携室(事務部)や在宅療養支援室(看護部)と協働するセンターとして統合し現在に至っています

4機関全てに電子カルテが導入されており、SW援助記録も電子化されています

教育研修システム

◆大学の取り組み

1年目：新入職員研修

⇒ビジネスマナー、タイムマネジメント、セーフティマネジメントへの理解等

2年目：入職2年目研修

⇒患者満足度の高い対応、効果的な職場コミュニケーションの実践等

勤続年数・等級に応じた研修、自己啓発援助制度があり教育体制が充実しています！

OJT制度：「On the job training」

⇒新入職員に対して、1年を通して1人の先輩SWがサポートにつき、実務を実践しながら業務を学べる仕組みです



教育研修システム

◆ソーシャルワーカー室の取り組み

新人研修ハンドブック

⇒改訂を重ね現在20版となっています。最新版を入職時にお渡しします！

研修ノート

⇒入職から3カ月間、1日の振り返りをノートに記載します。学んだことや迷いなどを率直に書いてもらい、それに対して先輩SWが毎日コメントを返します。日々の自身の成長を振り返ることができ、達成感を味わうことも出来ます！

新入職員振り返り

⇒入職から3か月後に同期SWと一緒に先輩SWと1事例を通した振り返りを行います。終了後は4機関のSWが一堂に会し親睦会をしています。



若手職員の有志勉強会

⇒4機関合同で新入職員を含めた若手職員を中心とした勉強会を年間4回開催しています。毎回テーマを決めて各機関の特色を学んだり、事例検討等を行っています



1日のタイムスケジュール例(2年目職員の場合)

9:00 出勤・朝礼・朝のケースミーティング

⇒SW部門内で、ケースの情報共有・援助方針のアドバイス等が受けられます



9:30 統計事務作業

10:00～12:00 他院への転院打診、ケアマネジャーや関係機関へ連絡調整

12:00 休憩



13:00 病棟ラウンド

⇒担当している病棟で緊急入院をした方について、支援の必要がないか病棟スタッフから情報収集をします

14:00 患者さん・ご家族と面談



15:00 退院調整



16:00 多職種カンファレンス参加

⇒Dr・Ns・リハビリ科セラピスト・SW等で、治療方針や今後の退院支援の方針について打ち合わせを実施します

17:00 記録・日報入力



17:30 退勤

⇒今はコロナ禍で難しいですが、落ち着いたらたまには息抜きもします！

各機関の紹介

- ◆ 附属病院(本院) 東京都港区
- ◆ 葛飾医療センター 東京都葛飾区
- ◆ 第三病院 東京都狛江市
- ◆ 柏病院 千葉県柏市

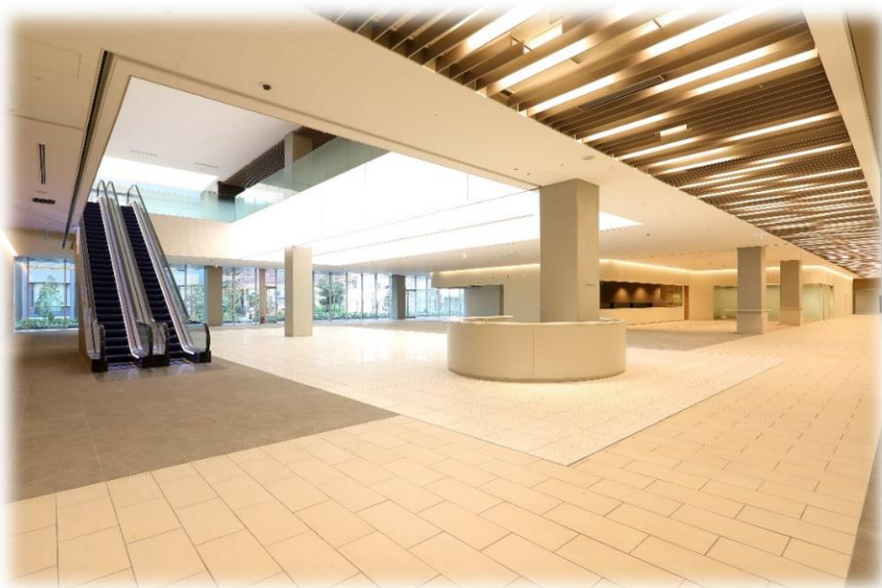
附属病院(本院)



附属病院(本院) ソーシャルワーカー室

SWの定数は9名

患者支援・医療連携センターにて、在宅療養支援室・入退院支援室・医療連携室とともに有機的に連携しながら業務を行っています



附属病院(本院)の特徴 ①

1075床を有する特定機能病院

⇒高度先進医療を求めて全国各地から

患者さんが来院されます

外国人や旅行者の患者さんも多いです



2020年1月に新外来棟がオープン

⇒ソーシャルワーカー室は新外来棟1階の中央部にあります

東京都エイズ診療中核拠点病院

⇒HIV・エイズ患者さんへの制度紹介、心理面への援助など

SWがルーティンで介入しています

附属病院の特徴 ②

東京都周産期母子医療センター

⇒NICU・GCU・MFICU病棟あり

⇒産科・小児科等の周産期ハイリスクケース

妊娠期から育児支援で介入する機会が多くあります

子ども虐待や重症心身障害児への援助があります

⇒家族支援チームを立ち上げ、SWが中心となり多職種で活動しています

地域がん診療拠点病院

⇒患者支援・医療連携センターが「がん相談支援センター」として、

地域住民のがん相談窓口を担っています

附属4病院の中で唯一、精神神経科病棟(46床)を有する

⇒就労支援や退院支援、精神疾患合併妊娠症例への援助などがあります



附属病院の特徴 ③

認知症ケアチーム

⇒認知症の患者さんに対し医師、看護師、薬剤師とチームで対応しています

緩和ケアチーム

⇒毎週カンファレンスに参加し、疼痛コントロール状況の確認や、今後の療養先についての患者さん・ご家族の意向の情報共有を行います



生体肝移植症例における心理・社会的側面への援助

⇒精神科Dr・SWで、全移植候補症例に介入し、移植適応の判定に必要な「心理・社会的側面」に関して、患者さん・ドナー(臓器を提供する人)双方に対して事前面接を行っています

葛飾医療センター



葛飾医療センター ソーシャルワーカー室

SWの定数は4名

入退院・医療連携センターにて、医療連携部門・看護部門(退院支援看護師)と共に各部門が有機的に連携しながら業務を行っています



葛飾医療センターの特徴 ①

371床を有する地域基幹病院

⇒患者さんのほとんどが近隣地域に在住している地域密着型の病院です

独居、高齢者世帯、外国人の多い地域

⇒経済的な相談や身寄りのない患者さんの社会的調整・援助を必要とするケースが多いです

下町人情あふれる地域柄と在宅医療・看護が充実している地域

⇒在宅で最期まで過ごされる方が多いです

地域サポートを活用しながら援助を行っています



葛飾医療センターの特徴 ②

周産期ケースへの取り組み

⇒家族問題や精神科疾患を抱えた周産期ケースが多く、週1回、助産師・SW間でカンファレンスを行っています



家族支援チーム (FAST)

⇒子ども虐待、高齢者虐待、DV、障害者虐待の問題を取り扱うチーム (FAST) があり、SWが中心となり、多職種で活動しています

東京都エイズ診療拠点病院

⇒HIV・エイズ患者さんへの制度紹介、心理的援助など、SWがルーティンで介入しています

その他、認知症ケアチーム、緩和ケアチーム、IBD (炎症性腸疾患) チームがあり、SWもチームの一員として、ラウンドやカンファレンス参加などの活動をしています

第三病院



第三病院 ソーシャルワーカー室

SWの定数は6名

総合医療支援センターにて、医療連携室、在宅・入退院支援室等と共に、有機的に連携しながら業務を行っています



第三病院の特徴 ①

581床を有する地域基幹病院

⇒地域に密着した病院です

慈恵の中で唯一、リハビリ病棟(27床)と結核病棟(20床)を有する

⇒多職種カンファレンスやチーム医療が盛んであり、退院後の生活も視野に入れた、きめ細やかな長期的支援を展開しています

森田療法発祥の地です

⇒森田療法センター(精神20床)を有しており、森田療法を求めて全国から患者さんが集まります



<森田療法センター>

同敷地内に国領校キャンパスあり

⇒医学部医学科と看護学科の学生が学んでいます
看護専門学校も有しているため、他職種の実習生の受け入れも盛んです



<森田の庭>

第三病院の特徴 ②

東京都高次脳機能障害者支援普及事業受託

⇒運営委員として参画し、地域相談会への参加や研修会での講演、行政や他病院との連絡会などを行っています

東京都地域連携型認知症疾患医療センター

⇒専従精神保健福祉士として認知症ケアチームにも参加し、認知症ケア加算を算定、院内外研修等にも参画しています



東京都がん診療連携拠点病院

⇒院内にがん診療センターが組織化され、更にがん相談支援センターが設置されています

緩和ケアチームのメンバーとなり、毎週カンファレンスに参加する他、研修会等にも参画しています

第三病院の特徴 ③

高齢者世帯が非常に多い地域

⇒近所に都営住宅が多く、単身高齢者や高齢者のみの世帯、認知症患者さんが多い地域です

療養型病院や老健施設等への転院を中心とした退院支援が多いです

家族支援チーム

⇒子ども虐待・高齢者虐待・障害者虐待・DVなどを取り扱うチームが組織されSWが中心となり、多職種チームで介入しています



2025年に新病院が竣工予定！

⇒すでに院内にワーキングが発足し、新病院のコンセプト等を立案・設計しています。私達と一緒に地域に根ざした魅力あふれる新病院を創っていきましょう！

柏病院



柏病院 ソーシャルワーカー室

SWの定数は6名

患者支援センターにて、医療連携室、退院支援看護師とともに組織横断的な業務を行っています



柏病院の特徴 ①

664床を有する地域基幹病院

- ⇒患者さんの居住地はある程度限られ、
大学病院でありながら、地域に根ざした活動を行っています
- ⇒千葉県で数少ない大学病院として求められるものも多く、
幅広い役割が期待されている病院です



救命救急センター

- ⇒主に3次救急患者の受け入れを担っています
- ⇒交通事故や自殺企図などの重傷患者が多く、
重い障害を抱えながらの退院援助でSWが関わることが多いです



柏病院の特徴 ②

地域がん診療連携拠点病院

⇒緩和ケアチームメンバーとしてラウンドやカンファレンスに参加している他、
がん相談支援センター業務の相談機能を受託しています

東葛北部地域難病相談支援センター(千葉県委託事業)

⇒地域の難病患者さんや関係機関からの
相談支援業務及び講演会開催等の事業を行っています



柏病院の特徴 ③

家族支援チーム

⇒児童虐待・高齢者虐待・障害者虐待・DVなどを取り扱う
チームが組織され、SWがチームの中心となって活動しています

千葉県エイズ診療拠点病院

⇒HIV・エイズ患者さんへの制度紹介、心理的援助など
SWがルーティンで介入しています

周産期ケースへの対応

⇒精神疾患合併妊婦や家族問題を有する
ケースなどに対応しています

認知症ケアチーム

⇒認知症の患者さんに対し医師、看護師とチームで対応しています



各機関それぞれ、特色・違いはありますが、
慈恵医大のソーシャルワーカーが一番大切にしている
ことは、「クライアント・ファースト」の姿勢です。

共に楽しく、時には迷い、悩みながら

クライアント一人ひとりに寄り添った支援を目指して
一緒に歩いていければと思っています。

ご応募を心よりお待ちしております。

